

第 28 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 1 「令和 6 年版厚生労働白書」(厚生労働省、2024 年)に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

1. 女性の活躍促進に向けて、女性活躍推進法に基づく「くるみん」認定を目指すよう、厚生労働省では認定のメリットも含め広く周知し、認定申請に向けた取組み促進を図っている。
2. 若者の雇用情勢について、15～24 歳や 25～34 歳の完全失業率は全体の平均よりも低い傾向がある。
3. 2023(令和 5)年 6 月現在、高年齢者雇用確保措置は 21 人以上規模企業において、約半数の割合で実施されている。
4. 若年者の雇用情勢について、2023 年 3 月卒業者の就職率は、大卒者、高卒者ともに 90%を超える高い水準となっている。

問 2 就職氷河期世代への支援に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. 伴走型の就職相談・定着支援を強化するため、全国の主要なハローワークに、就職氷河期世代専門窓口を設置している。
2. 特定求職者雇用開発助成金は、就職氷河期世代の人材育成や職場定着を促進するため、正社員としての就職が困難な者を正社員として雇い入れた事業主に対して助成される。
3. トライアル雇用は、職業経験の不足などから、就職が困難な求職者等を原則 6 か月間試行雇用することにより、労働者の適性を確認した上で無期雇用へ移行できる制度である。
4. キャリアアップ助成金は、非正規雇用労働者の正社員化や処遇改善などの取組を実施した事業主に対して助成している。

第 28 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 3 「令和 4 年版労働経済の分析」(厚生労働省)で示された、キャリアコンサルティングが労働者のキャリア形成に及ぼす影響に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

- 1.雇用形態別にキャリアコンサルティング経験がある者の割合をみると、派遣社員や契約社員等のキャリアコンサルティング経験がある者の割合は、正規雇用労働者と比べ低いとはいえない。
- 2.過去にキャリアコンサルティング経験のある者の方が転職回数は少ない傾向にある。
- 3.キャリアコンサルティング経験がない者の方が、特定の分野の仕事に限定した職業経験を積むよりも、異分野へのキャリアチェンジを積極的に行う傾向がある。
- 4.「企業内(人事部)」や「企業内(人事部以外)」でキャリアコンサルティングを受ける場合は、就職や転職に結びつく者の割合が高い傾向がある。

問 4 スーパーの理論に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

- 1.5 段階の職業的発達段階について、探索段階の次の段階は維持段階である。
- 2.職業的発達段階の各段階の間には、暦年齢に強く関連した「移行期」があるとした。
- 3.ビューラーの生活段階、ハヴィガーストの発達課題、ギンズバーグの発達理論などを整理し、職業的な発達理論を整理した。
- 4.制限妥協理論を提唱し、子供は自分が考慮すべき選択肢を排除するように職業を考えることがあるとした。

第 28 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 5 多文化(異文化)・社会正義論に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

- 1.レオンらの多文化キャリアカウンセリング論では、欧米人とアジア人ではキャリア観が異なるという主張がされている。
- 2.ブルースティンは、多文化キャリアカウンセリングの視点から、「文化的に適切なキャリアカウンセリング Culturally Appropriate Career Counseling: CACC」モデルを提唱した。
- 3.ナンシー・アーサーは、文化的アイデンティティに配慮した 4 つの領域からなる、「文化を取り入れたキャリアカウンセリングモデル(Culture-Infused Career Counseling: CICC)」を提唱した。
- 4.ワッツは、社会正義に関するキャリアガイダンス論の枠組みとして、「キャリアガイダンスの 4 つのイデオロギー」を提唱した。

問 6 意思決定の理論に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

- 1.ジェラットは、経済学における投資戦略理論を意思決定に応用して、予期システム、価値システム、基準(決定)システムからなる、連続的意思決定モデルを提唱した。
- 2.ヒルトンは、個人が持つ自己概念や希望、期待、職業観等の前提と、外界からの情報との間に生じた不協和(不一致)の解消が意思決定の過程であるとした。
- 3.ティードマンは、キャリア意思決定のプロセスを、大きく分けて「予期」の段階と「実行」の段階に分類した。
- 4.クランボルツは、キャリア意思決定のプロセスに影響を与える 4 つの要因のうち、「遺伝的特性や特別な能力」と「環境条件や出来事」を重視している。

第 28 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 7 キャリアに関連する理論に関する次の記述のうち、**適切なものはいくつあるか。**

- A.ハンセンは、キャリアには人生におけるすべての役割が含まれており、Love、Labor、Learning、Leisure の 4 つの活動が統合されるべきとした。
- B.サビカスは、キャリア関心、キャリア統制、キャリア好奇心、キャリア自信の 4 つからなるキャリア・アダプタビリティをキャリア構築理論の中核概念とした。
- C.バンデューラは、自己効力感を高める 4 つの情報源として、遂行行動の達成、言語的説得、代理的経験、情動的喚起の 4 つをあげている。
- D.シュロスバーグは、転機に対処するため、Situation、Self、Supports、Strategies の 4 つの S を点検することが重要であると指摘した。

- 1.1 つ
- 2.2 つ
- 3.3 つ
- 4.4 つ

問 8 動機づけ理論に関する次の記述のうち、**最も適切なものはどれか。**

- 1.ハーズバーグの 2 要因説では、職務満足や不満足を規定する要因には動機づけ要因と衛生要因があり、職務満足を高めるのは衛生要因であると説明している。
- 2.アルダファは、高次の欲求に着目し、職場における社会的欲求が動機づけを高めると考え、親和欲求、権力欲求、達成欲求からなる達成動機理論を構築した。
- 3.マクレランドは、人間には欠乏欲求と成長欲求があると主張し、存在欲求、関係欲求、成長欲求の 3 つの次元から構成される ERG モデルを提唱した。
- 4.デシは内発的動機づけが高まる要素として、自律性、有能性、関係性をあげており(認知的評価理論)、長期的な行動の持続には内発的動機づけが必要であると考えた。

第 28 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 9 カウンセリングの理論や心理療法の名称、その提唱者、特徴に関する次の記述のうち、組み合わせとして最も適切なものはどれか。

1. チクセントミハイ、フロー、ポジティブ心理学
2. ウォルピ、エンプティチェア、ゲシュタルト療法
3. アドラー、自我状態、交流分析
4. 吉本伊信、あるがまま、内観療法

問 10 カウンセリングの理論や心理療法に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 来談者中心療法では、クライアントが自分の中で感じられるフェルト・センスに焦点をあて、フェルト・センスからのメッセージを受けとることに主眼をおく。
2. 行動的アプローチでは、クライアントが望む状態を現実にするため、クライアントが元々もっている強さに焦点をあて、未来を指向して問題解決のための方策を検討する。
3. ナラティブ・アプローチでは、カウンセラーは、クライアントが現在もっているストーリーを、クライアントにとって望ましいストーリーへと書き換える共著者の役割を担う。
4. 解決志向アプローチでは、個人の問題行動は、不適切な行動の学習や適切な行動の未学習、環境による不適切な刺激と強化により引き起こされると考える。

第 28 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 11 「令和 5 年度能力開発基本調査」(厚生労働省、2024 年)の企業調査に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

1. 支出した費用の労働者一人当たり平均額は OFF-JT よりも、自己啓発支援の方が多い。
2. 正社員に対する能力開発方針は、「企業主体で決定する」またはそれに近いとする企業よりも、「労働者個人主体で決定する」またはそれに近いとする企業の方が多い。
3. 正社員に対する教育訓練に当たっては、「OJT を重視する」またはそれに近いとする企業よりも、「OFF-JT を重視する」またはそれに近いとする企業の方が多い。
4. 正社員に対して能力開発の成果を評価し、賃金や役職等に「反映する」またはそれに近いとする企業よりも、「反映しない」またはそれに近いとする企業の方が少ない。

問 12 「令和 5 年度能力開発基本調査」(厚生労働省、2024 年)の事業所調査に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

1. 令和 5 年度調査において、人材開発支援助成金を利用したと回答した事業所は約 3 割である。
2. ジョブ・カードの認知状況について、「内容を含めて知っており活用している」事業所は、約 1 割である。
3. 労働者の主体的なキャリア形成に向けて実施した取組として、最も多いのは「上司による定期的な面談の実施(1on1ミーティング等)」である。
4. 自己啓発に対する支援の内容として最も多いのは、正社員、正社員以外ともに「就業時間の配慮」である。

第 28 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 13 リカレント教育、リスキリングに関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

- 1.経済産業省と独立行政法人情報処理推進機構 (IPA) は、デジタル知識・能力を身につけるための実践的な学びの場として、ポータルサイト「マナビ DX」を開設している。
- 2.文部科学省は、大学等における学び直し講座情報や学び直し支援制度情報を発信する、社会人のためのポータルサイト「マナパス」を開設している。
- 3.厚生労働省の「キャリア形成・リスキリング推進事業」では、ジョブ・カードを活用したキャリア形成支援やリスキリング支援を有料で行っている。
- 4.厚生労働省の「学び・学び直し促進ガイドライン特設サイト」では、学び・学び直しに関する公的支援策の検索や、学び・学び直し診断コンテンツ等を提供している。

問 14 公的職業訓練 (ハورتレーニング) 等に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

- 1.主に雇用保険を受給している求職者を対象に、就職に必要な職業スキルや知識を習得するための訓練を、テキスト代等を除き無料で実施しているのは、離職者訓練である。
- 2.主に雇用保険を受給できない求職者を対象に、就職に必要な職業スキルや知識を習得するための訓練を、テキスト代等を除き無料で実施しているのは、求職者支援訓練である。
- 3.主に中小企業に在職している従業員のスキルアップを図る場合には、在職者訓練や生産性向上支援訓練がある。
- 4.主に学校卒業者を対象に、就職に必要な職業スキルや知識を習得するために行う学卒者訓練は、3 ヶ月程度の比較的短期間のものが多く、テキスト代等を除き無料である。

第 28 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 15 次に挙げる用語のうち、「働く人が仕事に対する認知や行動を主体的に見直すことにより、やらされ感のある仕事を、やりがいのある仕事へと変容させる手法」を表すものとして、**最も適切なものはどれか。**

1. ジョブ・ディスクリプション
2. ジョブ・デザイン
3. ジョブ・クラフティング
4. ジョブ・シェアリング

問 16 人事考課の評価誤差に関する次の記述のうち、**最も適切なものはどれか。**

1. 寛大化傾向とは、被考課者の特性について実際以上の厳しい考課をする傾向のことである。
2. 対比誤差とは、考課への自信のなさ等から、考課結果が「中央」に集中してしまう傾向のことである。
3. 論理的誤差とは、独立した項目間に関連性があると捉え、事実ではなく推論に基づいて判断してしまうことである。
4. 近接誤差とは、まず評価者が求める結論があり、つじつまが合うように評価項目を調整することにより、実態と評価が一致しなくなる傾向のことである。

第 28 回対策「みんな合☆総仕上げ模試」

問 17 職能資格制度と職務等級制度に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

- 1.職務等級制度は、職務の市場価値を考慮した賃金水準の決定を行いやすい。
- 2.職能資格制度は、人を基準としているため、人事異動やジョブローテーションが難しい。
- 3.職務等級制度は、仕事を基準としているため、年功序列的な運用となり、総人件費が高くなる傾向がある。
- 4.職能資格制度は、職務が発生した際に雇用を行う傾向があり、職務がなくなれば解雇もありうる。

問 18 「令和 6 年版労働経済の分析」(厚生労働省、2024 年)の雇用情勢の動向に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

- 1.2023 年の年齢計の労働力率は約 6 割で、女性や高年齢層を中心に労働参加が進んでいる。
- 2.2023 年の正規雇用労働者数は、感染症の拡大前の 2019 年の水準を上回り、9 年連続の増加となった。
- 3.非正規雇用労働者として働いている理由として最も多いのは、「正規の職員・従業員の仕事がないから」である。
- 4.2023 年の外国人労働者数は 200 万人を超え、外国人雇用状況の届出が義務化されて以降、11 年連続で過去最高を更新した。

第 28 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 19 「令和 5 年版労働経済の分析」(厚生労働省、2023 年)の「持続的な賃上げに向けて」に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

- 1.2022 年の賃上げの状況をみると、「ベースアップを実施した」、「ベースアップ以外の賃上げ(定期昇給等)を実施した」を合わせると、9割超の企業が何らかの賃上げを実施している。
- 2.賃上げを実施する理由は「最低賃金の引上げに対応するため」が最も多い。
- 3.転職後の賃金について、転職直後は賃金が減少する確率が高くなるものの、転職 2 年後には、転職前の企業で勤続するよりも年収が大きく増加する確率が高まると考えられる。
- 4.転職活動はしたが、転職しなかった理由として最も多いのは、20～40 歳台では「転職活動をする時間がない」、45～74 歳では「新しい環境に不安だったから」である。

問 20 「令和 5 年賃金構造基本統計調査」(厚生労働省、2024 年)に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

- 1.一般労働者の賃金について、男女間の賃金格差は男性を 100 とすると女性は約 85 である。
- 2.産業別にみた賃金では、男女計では、「学術研究、専門・技術サービス業」が最も高くなっている。
- 3.雇用形態別にみた賃金について、正社員・正職員を 100 とすると、正社員・正職員以外は男女計では約 50 である。
- 4.外国人労働者の在留資格区分別にみた賃金では、専門的・技術的分野(特定技能を除く)の金額が最も高い。

第 28 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 21 妊娠、出産、育児などに関する労働関係法令に関する次の記述のうち、**正しいもの**はどれか。

1. 請求の有無に関わらず、産前 6 週間(多胎妊娠の場合は 14 週間)は、就業させることはできない。
2. 請求の有無に関わらず、妊娠中の女性は他の軽易な業務に転換させなければならない。
3. 請求の有無に関わらず、妊産婦等を妊娠、出産、哺育等に有害な業務に就かせることはできない。
4. 請求の有無に関わらず、時間外労働、休日労働または深夜業をさせることはできない。

問 22 労働関係の諸法令に関する次の記述のうち、**正しいもの**はどれか。

1. 労災保険は、1 週間の所定労働時間が 20 時間以上であり、かつ 31 日以上雇用見込みがあれば必ず加入しなければならない。
2. 労働時間等設定改善法で規定されている「勤務間インターバル制度」は、法的義務である。
3. 個別労働関係紛争に関する労働相談や助言・指導、あっせんは、都道府県労働局が行っている。
4. 労働契約法の規定により、有期労働契約が更新されて通算で 3 年を超えたときに、労働者の申込みにより、無期労働契約に転換できる。

第 28 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 23 育児休業、介護休業に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

1. 育児休業期間中の所得保障には、健康保険による育児休業給付金がある。
2. 有期契約労働者は、雇用の要件に関わらず、育児休業を取得することはできない。
3. 育児休業及び介護休業期間中の健康保険、厚生年金保険の保険料は、事業主が申し出ることによって免除される。
4. 原則として子どもが1歳になるまでの間、育児休業の取得ができるが、1歳になる時点で保育所などに入所できない場合には、育児休業を1歳6ヵ月まで(再延長で2歳まで)延長できる。

問 24 社会保険制度に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 厚生年金保険の保険給付は、大別すると、老齢厚生年金、遺族厚生年金、障害厚生年金の 3 種類である。
2. 雇用保険では、求職の申込をした後に疾病又は負傷によって 15 日以上職業に就くことができない場合は、基本手当が受給できないかわりに傷病手当が支給される。
3. 健康保険では、業務外の傷病または通勤災害以外の傷病により労務不能となったときは、一定の条件のもとに傷病手当金が支給される。
4. 退職者は、退職日までに継続して 2 ヶ月以上の被保険者期間がある場合は、任意継続被保険者として 1 年間は健康保険に加入することができる。

第 28 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 25 「令和 5 年度学校基本統計(学校基本調査の結果)」(文部科学省、2023 年)に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

1. 小学校、中学校の在学者数は過去最少である一方、義務教育学校や中等教育学校は過去最多である。
2. 高等学校等卒業者の大学(学部)・短期大学(本科)への進学率(過年度卒を含む)は、約 4 割であり、過去最高である。
3. 大学(学部)卒業者に占める就職者の割合は 8 割を超えている。
4. 大学学部の女子学生は、過去最多であり、学部学生に占める割合は 5 割を超えている。

問 26 学校で行われるキャリア教育の諸施策や概念に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. 「キャリア・パスポート」は、児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことである。
2. 「キャリア・パスポート」を用いて、児童生徒と大人(家族や教師、地域住民等)が対話的に関わることも想定している。
3. 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(文部科学省、平成 23 年)で示されたキャリア教育の基本的方向性の一つには、「幼児期の教育から高等教育」まで体系的にキャリア教育を進めることがある。
4. 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(文部科学省、平成 23 年)で示された基礎的・汎用的能力には、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、論理的思考力の 4 つがある。

第 28 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 27 「インターンシップを始めとする学生のキャリア形成支援に係る取組の推進に当たっての基本的考え方」(文部科学省、厚生労働省、経済産業省、令和 4 年一部改正)で示された、インターンシップの類型に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

- 1.タイプ 1「オープンカンパニー」やタイプ 2「キャリア教育」で取得した学生情報の採用活動への活用は、「可」である。
- 2.タイプ 2「キャリア教育」は、就業体験が必ず伴う。
- 3.タイプ 3「汎用型能力・専門活用型インターンシップ」の就業体験では有給が基本である。
- 4.タイプ 4「高度専門型インターンシップ」として試行されているものに、「ジョブ型研究インターンシップ」がある。

問 28「健康づくりのための睡眠ガイド 2023」(厚生労働省、2024 年)に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

- 1.睡眠時間は季節によって変動し、夏季に比べて冬季に 10～40 分程度、睡眠時間が長くなることが示されている。
- 2.科学的知見に基づくと、成人においては、おおよそ 6～8 時間が適正な睡眠時間と考えられる。
- 3.平日の睡眠不足(睡眠負債)を、休日に取り戻そうと長い睡眠時間を確保する「寝だめ」によって眠りを「ためる」ことができる。
- 4.睡眠には1日の活動で蓄積した疲労やストレスから回復させる重要な役割があるため、睡眠休養感を向上させることも重要である。

第 28 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 29 精神疾患の特徴に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

- 1.気分障害は、交通事故や脳血管障害などの病気により、脳にダメージを受けることで生じる認知や行動に生じる障害である。
- 2.統合失調症は、「幻覚」や「妄想」が特徴的な症状だが、その他にも様々な生活のしづらさが障害として表れることが知られている。
- 3.双極性障害は、本人も不合理であるとわかっているにもかかわらず、それが頭から離れず、確認の動作などを繰り返してしまう特徴がある。
- 4.発達障害は、食事の量や食べ方など、食事に関連した行動の異常により、心と体の両方に影響が及ぶ病気の総称である。

問 30 発達課題の理論、理論家に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

- 1.フロイトが性心理的な発達を重視したのに対し、エリクソンは心理社会的な発達を重視し、アイデンティティ(自我同一性)の概念を提唱した。
- 2.レビンソンは、成人期を四季にたとえた「ライフサイクル」に焦点をあて、成人の心理社会的な成達は生活構造の安定期と過渡期が交互に現れて進むと考えた。
- 3.岡本祐子は「岐路としての中年期」に焦点をあて、アイデンティティの危機における心理的变化の特徴から、中年期の「アイデンティティ再体制化のプロセス」を明らかにした。
- 4.エリクソンのいう「世代性」とは、自分の同一性と他者の同一性を融合し合う能力のことを言い、一般的には結婚を可能にする。

第 28 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 31 発達段階と発達課題に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

- 1.バルテスは、生涯にわたる心理的適応能力の獲得と喪失について、加齢に伴い獲得が多くなり、喪失が少なくなるというモデルを提唱した。
- 2.スーパーは「獲得した地位や利益を保持」することを探索段階の課題であるとした。
- 3.トーンスタムは、老年になり、日常の行為に対して「ありがたい」という感覚が生じることを「老年的超越」と名づけた。
- 4.ハヴィガーストは人生を 4 つの時期に分け、40 歳前後を「人生の正午」であるとした。

問 32 転機の理論に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

- 1.ニコルソンのキャリア・トランジションのプロセスは、準備、遭遇、適応、安定化の 4 つの段階からなる。
- 2.金井壽宏は、キャリア・デザインがないとドリフト(漂流)を楽しむことができず、ただ流されてしまうと指摘した。
- 3.ブリッジスは、変化の激しい環境下での予期せぬ出来事を活かすため、積極的不確実性を主要概念とする、キャリアにおける意思決定の新たな枠組みを提示した。
- 4.シュロスバーグのトランジションは、発達段階の移行期としてのものではなく、人生上の出来事の視点から見たものである。

第 28 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 33 障害者の雇用に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

1. 障害者の法定雇用率は民間企業の場合、令和 6 年度は 2.3%である。
2. 「令和 5 年障害者雇用状況の集計結果」(厚生労働省、2023 年)によると、令和 5 年の法定雇用率達成企業の割合は約 5 割である。
3. 「令和 5 年版労働経済の分析」(厚生労働省、2023 年)によると、従業員数「1,000 人以上」と「1,000 人未満」の企業で比較すると、「1,000 人未満」の企業の方が法定雇用率の達成割合が高い。
4. 地域障害者職業センターでは、身近な地域において障害者の就業面及び生活面における一体的な相談・支援を行っている。

問 34 「令和 6 年度年次経済財政報告」(内閣府、2024 年)で示された「高齢者就業の現状と課題」に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. 高齢者の活躍が広がることにより、より若い年齢層の労働者が仕事以外の子育てやリスクリング等に時間を投じられるといったメリットにもつながる。
2. 2021 年の高年齢者雇用安定法の改正により、70 歳までの高年齢者就業確保措置の導入が努力義務とされた。
3. 我が国の 65 歳～74 歳の労働参加率は、欧米主要国より低い傾向がある。
4. 「介護や家事のため就業できない」といった事情を持つ者は、60 代の男性で 1 割以下なのに対し、同年代の女性は 3～4 割程度と高い傾向がある。

第 28 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 35 システマティック・アプローチに関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

1. カウンセリングの開始では、来談の目的と何が問題なのかを明確にし、問題解決のためにクライアントが行動する意思を確認する。
2. 目標の設定では、解決すべき問題を吟味し、最終目標を決定、契約を結びクライアントのコミットメントを明らかにする。
3. 方策の実行では、カウンセリング関係を樹立し、クライアントが安心して話のできる信頼関係を樹立する。
4. 結果の評価では、意思決定、学習及び自己管理の選択した方策を実行する。

問 36 ブリーフ・セラピーにおける、クライアント自身による解決のためのリソースを引き出す質問例に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. 「寝ている間に奇跡が起きて問題が解決しました。翌朝、どのようなことからその奇跡が起きたことがわかりますか」という質問は、ミラクル・クエスチョンである。
2. 「最高を 10、最低を 1 として、今はどれくらいですか」という質問は、スケーリングの質問である。
3. 「何をやってもうまくいかない、という人に、うまく出来たことはありませんか」という質問は、例外探しの質問である。
4. 「どうやって、そのような厳しい状況を乗り越えたのですか」という質問は、関係性の質問である。

第 28 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 37 グループカウンセリングの一形態である「構成的グループエンカウンター」に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

- 1.構成的グループエンカウンターはふれあいと自己発見を目的としており、具体的な技法として、ゲシュタルト療法や論理療法が用いられることはない。
- 2.構成的グループエンカウンタールールとして、守秘義務の遵守、批判的・評価的発言をしない、発言を強要しない、エクササイズを強要しない、の 4 点がある。
- 3.構成的グループエンカウンター原理の一つとして、エクササイズをはじめとした枠を介して自己開示が促進されることがある。
- 4.構成的グループエンカウンターにおけるシェアリングとは、エクササイズに取り組んで感じたこと、気づいたことを共有することである。

問 38 ジョブ・カードの様式に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

- 1.将来の目標とする職業、職務、働き方、習得・向上すべき能力等を実現するための職業生活設計を記載するのは、職務経歴シートである。
- 2.社員経歴のほか、雇用形態にかかわらず、アルバイト、期間雇用、雇用型訓練等の経歴の棚卸しを記載するのは、キャリア・プランシートである。
- 3.キャリア・プラン作成補助シートには、求職者用のみがある。
- 4.相談者の免許・資格、学習歴・訓練歴、訓練成果の評価、職場での仕事振りの評価に関する情報を記載するのは、職業能力証明シートである。

第 28 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 39 相談場面での「沈黙」に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

- 1.面接中に相談者が沈黙した場合には、相談者に発言や回答を急かすのではなく、沈黙の持つ意味を理解したうえで対応する。
- 2.カウンセリングへの意欲が乏しいクライアントや意思疎通が困難なクライアントに対しては、カウンセラーは沈黙で対峙する。
- 3.逐語記録には沈黙や非言語で示された動作なども相談者の心情の表れとして、可能な限り記述する。
- 4.クライアントの沈黙には、いろいろな意味があることを理解し、カウンセラーは沈黙による不安に耐えなければならない場合もある。

問 40 職業レディネス・テストに関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

- 1.160 個の職業について、興味、関心の有無を回答させることにより、興味領域と傾向尺度に対する個人の特性を測定する。
- 2.職業興味の A 検査、基礎的志向性の B 検査、職務遂行の自信度の C 検査の 3 つの検査により測定する。
- 3.仕事の遂行に必要な 9 つの適性能を 11 種の紙筆検査と 4 種の器具検査により測定する。
- 4.総合的なコンピュータ支援型キャリアガイダンスシステムであり適性評価や職業情報の検索、適性と職業の照合機能がある。

第 28 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 41 ホランダの理論の影響を受けた職業適性検査や職業興味検査として、最も不適切なものはどれか。

- 1.VPI 職業興味検査
- 2.厚生労働省編一般職業適性検査(GATB)
- 3.職業レディネス・テスト
- 4.新版 OHBY カード

問 42 「職場情報総合サイト(しょくばらば)」(厚生労働省)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

- 1.職業興味検査、価値観検査、職業適性テスト(G テスト)などの自己診断ツールが実装されている。
- 2.職場情報とは、企業の残業時間(時間外労働時間)や有給休暇取得率、平均年齢などの、職場の様々な情報のことを指す。
- 3.一部のページは、言語切り替えにより「英語」で内容を閲覧できる。
- 4.「くるみん認定」、「えるぼし認定」、「ユースエール認定」を取得している企業の職場情報を検索できる。

第 28 回対策「みんな合☆総仕上げ模試」

問 43 方策の実行のプロセスに関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

- 1.可能性のある方策をいくつか考え、その中から適切な方策を1つ選ぶ。
- 2.方策がクライアントの欲求や価値観に反する場合には方策を変更することもある。
- 3.方策実行のためにカウンセラーとクライアントは、必ず文書にして契約書を取り交わす。
- 4.決定し、契約した行動をクライアントは自分の責任で実行する。

問 44 職業情報の収集や提供に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

- 1.情報提供は単に口頭で提示するよりも、クライアント自身に「書きとらせる」など、自分で体験できる方法で行う方がよい。
- 2.情報提供の原則は、クライアントが自分で情報を得る方法を教えるのではなく、キャリアコンサルタントが相談者の求める情報を迅速かつ的確に提供することである。
- 3.クライアントにとって否定的な情報は、通常クライアントは受け入れないため、伝えるべきではない。
- 4.すぐに方策の実行に役立つ情報ではない場合には、その情報の探し方を伝える必要はない。

第 28 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 45 意思決定方策の前提に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. カウンセリング・プロセスの中でクライアントは、受動的な役割を果たさなければならない。
2. 意思決定は「完璧性」を求めるものであり、唯一の可能性を見出すよう支援する。
3. 意思決定のプロセスは、人間関係をつくる段階と意思決定する段階の二つに分けられる。
4. 意思決定は、意思決定の内容よりも、タイミングが重要である。

問 46 「『セルフ・キャリアドック』導入の方針と展開」(厚生労働省、2017 年)に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. キャリア自律とその支援を行う組織風土を構築するためには、経営者のコミットメントに期待するよりも、現場管理者の理解の促進が重要である。
2. セルフ・キャリアドックの責任者は、人材育成に関して社内に影響力を有することが重要であるため、必ず人事部門から適任者を選定することが求められる。
3. 面談内容のうち、法令違反やハラスメントなどの企業側が組織的に対応すべき内容があれば、原則として本人の同意を得た上で企業側に伝える。
4. 事業主による労働者へのキャリアコンサルティングの機会の確保は、労働契約法で規定されている。

第 28 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 47 「心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援の手引き」(厚生労働省、2024 年改訂)で示された関係者の役割や留意点に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. 職場復帰に関する主治医による診断は、日常生活における病状の回復程度によって職場復帰の可能性を判断することがあるため、主治医からの診断書だけで判断することは好ましくない。
2. 職場復帰の可否についての判断は、本人の上司である管理監督者が中心となる。
3. 職場復帰後は管理監督者による観察と支援や、事業場内産業保健スタッフ等による定期的または就業上の配慮の更新時期等に合わせたフォローアップを実施する。
4. 職場復帰においては、労働条件の改善、配置転換、異動等の配慮の必要があることから人事労務管理スタッフは重要な役割を担う。

問 48 スーパービジョンに関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

1. スーパーバイザーとは、カウンセリング経験の豊富さと同時に理論や技法にも精通しており、カウンセリングの指導者として、自他ともに認めることができる人である。
2. スーパービジョンの目的は、キャリアカウンセリングが成功するような支援をすることであり、キャリアコンサルタントとしての成長を支援することは含まない。
3. グループスーパービジョンでは、グループの他のメンバーの多様な事例に触れることができ、他のメンバーからもフィードバックを受けることができる。
4. キャリア支援とメンタルヘルス支援の統合が必要な事例が次第に増加傾向にあるが、こうした統合的スキルはキャリアカウンセラーにとっては必要ない。

第 28 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 49 キャリアコンサルティングにおける多重関係に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 相談中のクライアントを自らが主催するパーティに招待することは多重関係に該当する。
2. 相談者に対して自らの著作物を勧めて販売することは多重関係に該当する。
3. キャリアコンサルタントとクライアントの関係が、職場での上司と部下の関係にある場合、多重関係に該当しない。
4. 自らの資産運用の相談を、ファイナンシャルプランナーであるクライアントにもちかけることは多重関係に該当する。

問 50 令和 6 年に改正されたキャリアコンサルタント倫理綱領に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. キャリアコンサルタントは、業務並びにこれに関連する活動に関して知り得た秘密に対して、どのような場合であっても守秘義務を負う。
2. キャリアコンサルタントは、質の高い支援を提供するためには、自身の人間としての成長や不断の自己研鑽が重要であることを自覚し、実務経験のみを積むことが重要である。
3. 情報技術が相談者や依頼主の生活や生き方に大きな影響を与えることを理解することが必要だが、相談のスキル向上が最も重要であり、情報技術の修得に努める必要はない。
4. キャリアコンサルティングを行うにあたり、キャリアコンサルティングの目的及びその範囲、守秘義務等について、書面や口頭で説明を行い、相談者の同意を得た上で職責を果たさなければならない。